

**お知らせ**

●国際博物館の日 入館料無料 5月18日(水)  
5月18日(水)「国際博物館の日」は入館料が無料です。

■**県博バックヤードツアー**

「国際博物館の日」の記念事業として、今年も“県博バックヤードツアー”を実施します。ふだんは見られない収蔵庫などを学芸員が特別にご案内します。

●5月15日(日) ①10:00~ ②10:20~ ③10:40~  
当日受付 参加無料 定員各回10名 所要時間約95分  
※開館時から受付で整理券を配布します。

**展覧会**

■**テーマ展「くらしと古文書」**

平成23年3月19日(土)~5月8日(日) 特別展示室  
今に伝えられた昔の書類は「古文書(こもんじょ)」とよばれ、人々の生活の一端を教えてください。

江戸時代から明治時代頃の古文書を通して、人々の生活の様子や現代と違った習慣などをさぐってみようとする企画です。

●展示解説会 14:30~15:30 特別展示室 要入館料  
3月21日(月・祝)、5月3日(火・祝)

●**関連事業**

日曜講座 13:30~15:00 教室 当日受付・聴講無料 一般対象  
3月27日(日)「くらしと書き物 昔と今」

講師：阿部勝則(当館学芸員)

4月10日(日)「古文書に見る江戸時代の旅」

講師：原田祐参(当館学芸員)

5月8日(日)「大名行列がやってくる~参勤交代と花巻~」

講師：小原 茂氏(花巻市博物館上席主任学芸員)

■**テーマ展「砂~砂粒から大地をさぐる~」**

5月29日(日)~7月3日(日) 特別展示室

●展示解説会 14:30~15:30 特別展示室 要入館料  
5月29日(日)、6月19日(日)

●**関連事業**

日曜講座 13:30~15:00 当日受付・聴講無料 一般対象

6月12日(日)「美しい砂の世界-砂の話あれこれ-」

講師：須藤定久氏(産業技術総合研究所客員研究員)

6月26日(日)「岩手の砂~砂粒から自然を考える~」

講師：吉田 充(当館学芸員)

■**講座・講演会等**

●**県博日曜講座**

第2・第4日曜日 13:30~15:00 当日受付 聴講無料  
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します

3月13日「岩手の地名に日本語の源流をたどるⅡ」  
菊池 慧(当館館長)

4月24日「供養のかたち~お盆を迎える前に~」  
川向富貴子(当館学芸員)

5月22日「身近にいる知られていない生物 変形菌」  
玉山光典氏(当館研究協力員)

■**受講者募集**

◆**古文書入門講座**

6月4日(土)~6月26日(日) 毎週土曜・日曜 全8回 10:00~11:30  
定員30名 一般対象(初めて古文書を学ぶ方)  
募集期間：5月10日(火)から5月24日(火)まで(必着)

◆**古文書初・中級講座**

7月9日(土)~7月31日(日) 毎週土曜・日曜 全8回 10:00~11:30  
定員30名 一般対象(当館の「古文書入門講座」を受講された方)  
募集期間：6月14日(火)から6月28日(火)まで(必着)

※申込方法：入門講座、初・中級講座とも、①受講を希望する講座名  
②住所 ③氏名(ふりがなも) ④年齢を明記の上、往復ハガキまたは返信用ハガキを当館まで郵送あるいは持参してください。

※受講者の決定：募集締め切り後、ハガキで通知します。

■**芸能鑑賞会**

■**平成22年度第2回伝統芸能鑑賞会**

「春を招く若人の舞」  
3月12日(土) 11:00~と13:30~の2回  
出演 川又(小野松)神楽、青森県立田子高等学校郷土芸能部  
当日受付 鑑賞無料 会場：グラントホール

■**観察会**

◆**第61回自然観察会**  
6月5日(日)「湿原の成り立ちを知ろう」 滝沢村春子谷地、八幡平市八幡沼  
※詳細は博物館にお問い合わせ下さい。

■**週末の催し**

◆**ミュージアムシアター**

毎月第1土曜日 13:30~ 1時間30分程度 講堂 当日受付 視聴無料  
童話や昔話、感動の物語を上映します。( )内は対象。

3月5日 魔法の指輪 [28分]、長靴をはいた猫 [24分]、のら猫と金魚 [10分]、木龍うるし [20分] (小・中学生、一般)

4月2日 日本の物語特集：三ねん寝太郎 [43分]、竹取物語 [31分]、わらしべ長者 [12分] (小・中学生、一般)

5月7日 マルコ~母を訪ねて三千里~ [99分] (小・中学生、一般)

6月4日 シートン動物記：灰色熊ワープの一生 [46分]、チビ犬チンク [23分]、森を守る小さな赤リス [23分] (小・中学生、一般)

◆**チャレンジ!はくぶつかん**

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付  
チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!

3月12日・13日、19日・20日・21日 テーマ：海

4月9日・10日、16日・17日 テーマ：でこぼこギザギザ

5月14日・15日、21日・22日 テーマ：鳥

6月11日・12日、18日・19日 テーマ：馬

◆**みんなでためそう!体験教室**

毎週日曜日 13:00集合~14:30 小学生20名程度 参加無料

※未就学児の場合は保護者同伴。希望者多数の場合は抽選。  
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験し、昔のくらしや身のまわりの自然にふれてみましょう。(※印は外部講師プログラム)

<b>3月</b> 6日 化石のレプリカづくり 13日 ヨーヨーづくり 20日 へん光万華鏡 27日 すみながし	<b>4月</b> 3日 まが玉アクセサリ 10日 スライムであそぼう 17日 石のオリジナルはんこ 24日 こいのぼりリース
<b>5月</b> 1日 からくり刀おもちゃ 8日 フクロウ笛 15日 ろうそくづくり 22日 コロコロたわらおもちゃ 29日 化石のレプリカ	<b>6月</b> 5日 ゆれるチャグチャグ馬コ 12日 草花のそめもの 19日 石から絵の具をつくろう 26日 こはくの玉づくり

■**定時解説**

日曜日を除く毎日 13:30~14:30  
解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員がご質問や解説のご希望におこたえしています。

■**バスのご案内**

■盛岡駅(11番のりば)または盛岡バスセンター(中三前)より「松園バスターミナル」行き乗車、終点で下車し、「②こども病院・北アパート回り」または「③県立博物館・北アパート回り」、「⑥松園循環バス右回り」に乗り換え、「県立博物館前」下車。徒歩3分。  
※松園バスターミナルからは徒歩15分です。

■盛岡駅(11番のりば)より「松園営業所」行き乗車、「西松園二丁目」下車。徒歩5分。

■**利用のご案内**

■開館時間 9:30~16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)  
資料整理日(9月1日~10日)

■入館料 一般300(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料  
( )内は20名以上の団体割引料金

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。  
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第128号 平成23年3月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019) 661-2831/Fax. (019) 665-1214 発行 財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019) 654-2235/Fax. (019) 625-3595
------------------------------------	---

**岩手県立博物館** だより

目次/テーマ展「くらしと古文書」より 表紙/いわて文化ノート p.2-3/展覧会案内「くらしと古文書」 p.4-5/エッセイ「開館30周年を振り返って」 p.6/活動レポート p.7/インフォメーション p.8



『子供早学問』(当館蔵)

江戸時代の寺子屋で使用された初等教育の教科書で、身近な生活上の教訓が平仮名つきで簡条書きされています。「一 忠義は末代の出世の手本」「一 親孝行は我子孫のため」「一 民をあはれむ君は日月の如し」「一 民を貪るは嫩の草を摘が如し」「一 不忠不孝なる者は人面之獣」等々。現代社会でも通用する教訓の数々に当時のくらしがはいまみえます。

テーマ展

**「くらしと古文書」**

3月19日(土)~5月8日(日) 特別展示室

■いわて文化ノート

山口に渡った岩手の考古遺物

■全国に点在する岩手の考古遺物

縄文時代の遺跡に恵まれた岩手県は、東北地方だけでなく、関東地方の学者たちからも注目を集め、明治時代以降、盛んに研究目的の学術発掘調査が行われてきました。そのため、岩手県内の遺跡から出土した考古遺物(土器や石器など)は、岩手県外の大学などの研究機関に今も数多く収蔵され、研究が進められています。

また、耕作などによって出土した土器や土偶、石棒などは、好事家たちの関心を集め、売買・交換されたものもあり、その結果、岩手の考古遺物は全国に点在しています。

岩手の考古遺物を収蔵する機関の一つに、山口県立山口博物館があります。山口県立山口博物館は明治45(1912)年発足、来年100周年を迎える博物館です。そこには、山口県内外の考古遺物が収蔵されています。なかでも戦前、戦後にかけて購入、あるいは寄贈等によって収集された東日本の縄文時代の遺物は、東北地方を中心に37遺跡、計485点にのぼっています。

■山口になぜ岩手の考古遺物が

山口県立山口博物館に収蔵されている岩手県の縄文資料は、一関市門崎役場村(砂知屋)、一関市草ヶ沢(狐禅寺草ヶ沢)遺跡、陸前高田市瀬沢貝塚、大船渡市大洞貝塚、奥州市ないし泉町所在と推定される伝衣川遺跡の計6遺跡53点です。

このうち門崎村役場と草ヶ沢遺跡出土遺物については、山口県立山口博物館の資料台帳に、昭和27(1952)年9月登録されていました。

しかし、貴重な考古遺物の数々である岩手の考古遺物が、なぜ、どうやって本州西端の山口県にまで辿り着いたのか、来歴について今まで明らかにされていませんでした。

■来歴に秘められた謎を解く

それでは、台帳に門崎村役場と記録のある遺物を通して、その謎をひも解いていきましょう。門崎村役場で見つかったと記録されている遺物は、右写真の墨書銘のある石棒です。

まず、見つかった場所について検証します。石棒の墨書は、「昭和拾貳年五月門崎村役場建築工事ニテ菊地歴治君掘出」と記されています。『門崎村史』には、「昭和十二年十二月字妻神五十三番の一の現在地に工費五千六百円建坪百坪の現庁舎を佐藤勝三郎氏の請負にて新築」と記述があり、出土地・年月に矛盾はありません。このことから、一関市川崎町門崎字妻神で見つかった石棒であると、判断することができます。

門崎村は、昭和31年に薄衣村と合併し川崎村になり、平成17年には一関市へ合併されています。門崎村役場の庁舎は、現在は残っていませんが、庁舎があった場所は、砂鉄川の右岸、山から裾野に緩やかに広がる、標高20~30mの東向きの日当たりの良い丘です。砂鉄川はそこから2.7km南下した地点で北上川に合流しています。

次に、この石棒がいつのものか、考えます。石棒の長さは37.6cm、幅3.9cmです。石材は緑色片岩、断面の形は円形で、上方はやや扁平になっています。上方の両側面に、中央に凹みのある突起があります。下の方は、途中で折れています。

このような石棒の形態は、山形県成興野遺跡で見つかったものを基準に、成興野型石棒と呼ばれています。成興野型石棒は、北海道南部から能登半島・静岡県あたりまでの広域で見つかる、珍しい遺物です。縄文時代後期~晩期初めの土器と一緒に見つかることが多いことから、今から約3000年あまり前の縄文時代後期~晩期初めのものだと考えられます。

昭和拾貳年五月門崎村役場建築工事ニテ菊地歴治君掘出



門崎村役場建設時に出土した石棒  
山口県立山口博物館蔵・画像提供

石棒は土器や石器などの生産用具ではなく、マツリの道具と考えられています。したがって、石棒が見つかる遺跡は、マツリを行うような、重要な集落だと考えることができます。

■寄贈者 佐伯敬紀氏

山口県立山口博物館の台帳上、石棒寄贈者名は、佐伯敬紀と記録されていました。佐伯敬紀氏は、昭和27~昭和39年山口県立山口博で学芸員として勤務し、石棒を寄贈したようです。

佐伯氏について調べを進めると、明治38年山口県防府市に生まれ、國學院大學で歴史学を学び、昭和24年には旧制一関中学校(現在の県立一関第一高等学校)で教鞭を取っていたことが分かりました。また、昭和24年の史学部設立に寄与し、顧問を務めました。このことから、佐伯氏は一関で教員をしていた時に、岩手県南部の考古資料に触れる機会に恵まれ、旧制中学解体後、故郷である山口に戻る際に、資料を持ち帰った可能性が考えられます。

■旧制一関中学校史学部

旧制一関中学校史学部は、後に岩手県の考古学を発展させる、鳥畑壽夫氏・鈴木孝志氏・熊谷常正氏らを輩出した名門です。設立初期の史学部は30名を超えるほど部員も多く、彼らは地元の両磐地域を中心に盛んに活動していました。

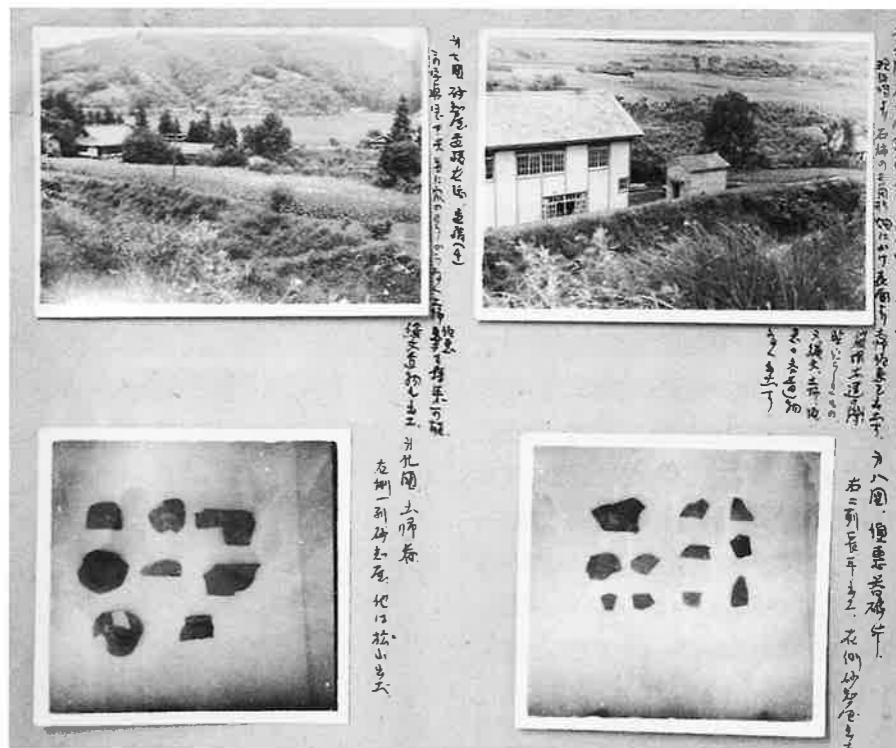
佐伯氏が生徒たちに最初に課したのは、遺跡はどこにあるのか、また、どの時代のどのような遺跡であるのかを調べるというものでした。生徒たちは自分の足で両磐地域をくまなく歩き、土器や石器などを拾っては、地図上に書き込みました。地道な活動の結果、高校生が詳細な遺跡分布図をほぼ完成させていました。彼らの成果には、門崎村も含まれています(右上図)。

■門崎村役場は砂知屋遺跡だった

門崎村の遺跡分布図を見ると、遺跡を示す「×」印が、役場の地点(●マーク)にもあります。また、史学部三代目委員長鳥畑壽夫氏のメモには、「俗称砂知屋現役場」と書かれたものや、写真付きの報告(右下)があります。門崎村役場地点は砂知屋遺跡と呼び、「役場木造の際 竪穴らしきもの又縄文・土師・須恵の各遺物多く出土す」と記録がありました。



門崎村の遺跡分布図(部分) 当館蔵



鳥畑壽夫氏の砂知屋遺跡メモ(部分) 当館蔵

砂知屋遺跡は、現在は遺跡に登録されていません。しかし、門崎村役場銘の石棒と、鳥畑氏の記述内容を照合することによって、石棒を出土する重要な遺跡の存在を確認できました。今後、砂知屋遺跡の存在は、磐井地域の縄文時代研究に活かされることでしょう。

■訪古

史学部を代表し、鳥畑壽夫氏は校内の学術研究発表会において、昭和26年は「気仙地方に於ける考古学遺蹟の分布について」、翌昭和27年には「磐井郡を中心とする先史考古学的遺蹟の分布について」を

発表し、人文科学部門にて優秀賞を受けています。鳥畑氏は高校卒業後、恩師佐伯敬紀氏の母校、國學院大學で考古学を本格的に学びました。史学部の図面等は鳥畑氏が保管しており、現在、岩手県立博物館で鳥畑壽夫資料目録を作成中です。考古学に魅せられた生徒が持っていた遺跡の情報と、彼を導いた教師が持っていた考古遺物。両者の意義を相互検証することによって、重要遺跡の再発見だけでなく、岩手の考古学のみならず、今も深い意味を持っています。

(学芸第三課 八木勝枝)

■テーマ展

# くらしと古文書

会期 平成23年3月19日(土)～5月8日(日) 会場：特別展示室

現代に生きる私たちと江戸時代の庶民のくらしは、どのような共通点と相違点があったのでしょうか。子供のころに学び、大人になって結婚・出産・歳祝などの人生の節目を経ながら、借金をしたり、旅にも出かけたり、厳しい環境のなかでも、たくましく生きていた江戸時代の人々のくらしの様子を古文書からさぐります。

## ■古文書が語るもの

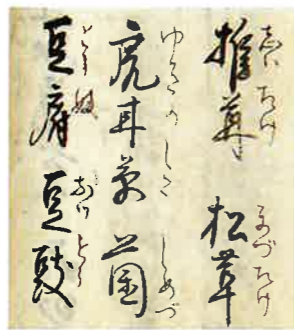
今に伝えられる昔の書類を古文書といいます。古文書には、役所が介在して授受される書類のほか、私的な手紙や日記、編纂された書物などにいたるまで、じつに多くの種類があります。近世（江戸時代）以降になると古文書の点数が膨大になりますが、その内容の多くは、生活のための金銭の借用や土地の売買などに関する証文や手形類、私的な書状などです。今回の展示は、当館が所蔵する古文書を中心に、ごく日常的な生活のなかで記された古文書を通して、江戸時代から明治時代にかけての庶民のくらしの様子を紹介します。

## ■寺子屋と教科書

江戸時代の庶民の子供は、寺子屋で読み・書き・そろばんを学び、その時代を生きるために必要な知識と技術を身につけました。今では難解なくずし字、変体仮名や異体字などを使用した書状類の書き方なども、当時の人々は、子供の頃にしっかりと学んで世の中に巣立っていったのです。寺子屋で初級の教科書として使われた「庭訓往来」をはじめとするさまざまな「往来物」（手紙の模範文例集）、書状の手本、「質物手形之事」（奉公することを条件とした借用証書）などの習字手習いなどから、当時の人々の学習の様子を紹介します。くずし字、変体仮名と異



「質物手形之事」(習字手習い)(当館蔵)



「文字覚帳」(当館蔵)

体字で記された古文書を読むナゾ解きの旅がここからはじまります。

## ■役所の文書と社会

江戸時代、公文書は、藩・代官所・肝入などから発給され、また提出されてもいました。それは、権力による一方的な領域の支配や掌握を示すものではなく、ある約束ごとのなかで人々が生きるための権利を保障するためのものでもありました。領主が家臣への給与を与えることを証明した「扶持証文」、公用で街道を往来する役人のために各宿駅での人馬の



「宗旨改書上」(当館蔵)

継立てを命じた「伝馬証文」、その他いろいろな証文や届出などから、当時の社会の一端を紹介しします。

往々にして文書は結果と

しての原本(正本)が残されるものですが、ときに控えや下書きが残される場合があります。例えば、江戸時代、キリシタンを摘発するために行われていた宗門改帳(しゅうもんかへ)に関連して作成された書類に記された「宗旨改書上」をみると、下書きでしょうか、仔細な文言の加筆・削除などの添削が行われています。文章中の●・□・△などの記号は、文章の順番を指示する記号です。そして、その後、天保2年(1831)、天保9年(1838)に作成された「宗旨改書上」の文書の内容には、文政6年の文書の添削内容がしっかりと反映されていました。かつての文書の添削内容が、その後の同類の文書に引き継がれたことがわかります。清書された原本だけでなく、添削された下書きの文書なども紹介しながら、当時の文書作成の様子について紹介します。



「伝馬証文」(当館蔵)

## ■人生の節目に記された文書

人の一生には、結婚・出産・歳祝など様々な節目があり、そのときどきの様子が記録として残されています。例えば、「縁組届」(現在の婚姻届)や「出生届」、「離縁届」(現在の離婚届)、「死亡届」など、いろいろな届出があります。また結婚・歳祝などの際に記された「祝儀受取帳」や、葬祭の際の「香典帳」などもあります。

また、江戸時代には離婚の際に「離縁状」が夫から妻に出されました。離縁の文言と再婚を許可する文言が三行半の形式(三下り半)で簡潔に記された「離縁状」は、岩手県でも確認例が少ない貴重な史料です。書状なども交えながら、当時の縁組と離縁の作法について紹介します。

## ■借金と返済の証文

田の年貢(租税)を米で納めていた時代、一般に五公五民といわれる税率(年貢率)や、東北北部に位置することに拠る冷涼な気候や天候不順などによる度重なる凶作や飢饉のなかで、人々は、土地を売り、また年季奉公に出ることで、生活するために必要な金銭を借り受けました。金銭を借り受ける際の「借用手形」や、田畑などの土地を担保として質入れしたり、売買を行った際の証文類(「永代相渡し申田手形事」など)から、当時の借金と返済の実情を紹介します。



「縁組届」(当館蔵)



「永代相渡し申田手形事」(当館蔵)

また、当時の銭(寛永通宝など)は、円形で、その中心に四角い穴が穿ている形状から、鳥目と呼ばれていました。借用証文のなかには、銭を◎と絵で描いた面白い表現もみられます。



「寛(借用証文)」(当館蔵)

## ■旅の手形と記録

江戸時代になると庶民も旅に出ました。その多くは、伊勢神宮、西国三十三所、金刀比羅宮や、善光寺など諸国の神社・仏閣を詣でる旅でした。旅は、住み

慣れた土地を離れて、他所の名所・旧跡を見るまたとない機会でした。旅に出るためには、檀那寺が発行する「往来手形」(身元証明書兼通行許可証)が必要でした。旅の案内書や、旅行者が旅の行程や宿代、物価などを記した「道中記」、矢立や印籠など道中に携帯した道具などとともに当時の旅の様子や、運ばれた物について紹介します。

## ■古文書の伝統

古文書というと、難解なくずし字で書かれ、変体仮名や異体字なども用いられ、一見親しみにくいように思えますが、その様式は、現在私たちが読み書きしている、いろいろな文書にも引き継がれています。儀式の際に認められる文書には、用いられる檀紙などの料紙、一つ書などの書式、折封などの封式に古文書の伝統が生きています。ここでは、結納を例にとって、今に伝わる古文書の伝統をみてみます。

また、古文書は、紙に記されたものだけではありません。意思伝達の手段としての古文書には、金属や石材に記された金石文、建物の新築や修理、棟上げの際、日時・施主・工匠を木札に記した棟札など、石材や木材に文字が記されたものもあります。引札(チラシ)や曆など少し変わった古文書についても紹介します。(専門学芸員 阿部勝則)

●展示解説会 特別展示室 要入館料  
3月21日(月・祝)・5月3日(火・祝)  
いずれも14:30～15:30

●県博日曜講座  
3月27日(日) 13:30～15:00  
教室 当日受付 無料  
「くらしと書き物 昔と今」  
講師：阿部勝則(当館学芸員)

4月10日(日) 13:30～15:00  
教室 当日受付 無料  
「古文書に見る江戸時代の旅」  
講師：原田祐参(当館学芸員)

5月8日(日) 13:30～15:00  
教室 当日受付 無料  
「大名行列がやってくる  
～参勤交代と花巻～」  
講師：小原 茂氏  
(花巻市博物館上席主任学芸員)

■エッセイ

# 開館30周年を振り返って

副館長 佐々木一成

開館30周年の節目を迎えた今年度、当館では二つの特別企画展を開催しました。

一つは、平成22年7月23日から8月29日までの会期で開催した、第3回北東北三県共同展「境界に生きた人々—遺物でたどる北東北のあゆみ—」です。

北東北三県共同展は、青森、秋田、岩手の各県の県立博物館に、岩手日報社、秋田魁新報社、東奥日報社を加えて実行委員会を組織し、北東北三県に共通する固有のテーマを取り上げて、3年毎に実施してきたものです。

平成16年度の第1回展「描かれた北東北」、平成19年度の第2回展「北東北自然史博物館」に続く、3回目に当たる今回の共同展では、古代国家を中心とした「中の文化」と、北海道を中心とした「北の文化」との境界に位置する北東北三県の、古墳時代から中世にいたる歴史と文化に焦点をあて、考古遺物を中心とする多彩な資料を展示しました。



北東北三県共同展

会期中には、考古学・歴史学ファンを中心に熱心な入場者があり、また、考古学セミナーなどの関連講座には毎回多くの参加者がありました。秋田県立博物館や青森県立郷土館の会場も、大変に盛況であったと伺っています。

実行委員会を組織して、三県の関係者が共同作業で展覧会を作り上げて行くことには様々な困難がありました。今回

の展示も、前2回の展覧会と同様、三県の県立博物館の長年にわたる地道な調査研究の積み重ねがあればこそ実現できた展覧会でした。

当館のこれからの活動に、3回にわたる北東北三県共同展の成果をいかに反映していくのが、今後の課題であると考えています。

次いで、平成22年10月2日から11月7日までは、開館30周年記念特別企画展「いわての漆」を開催しました。

当館では、昭和55年の開館以来、10年目ごとに岩手に関わりの深いテーマを設定し、周年記念展を実施してきました。今回は、平成2年の10周年記念の「北の鉄文化」、平成12年の20周年記念の「北の馬文化」に続くもので、鉄、馬とともに岩手の文化のひとつである「漆」をテーマとして取り上げました。

植物としてのウルシの展示を導入部に、遺跡出土品や歴史・民俗資料、美術工芸品などの各種資料を展示し、また、関連イベントとして漆掻きの実演を行うなど、岩手の漆文化を多方面から紹介することができました。

前2回の周年記念展同様、今回も、自然・人文の両部門を併せ持つ総合博物館としての当館の強みを発揮できた展覧会でした。

「いわての漆」展の会期中の10月17日



いわての漆展(漆掻きの実演)

には、「第3回博物館まつり」を実施し、たくさんの家族連れで賑わいました。開館40周年や50周年の時にも、子ども達の笑顔が当館に満ち溢れているに違いありません。



県博まつり(火おこし)

なお、当館では、今年度、開館30周年を記念して、「岩手山を望める丘にあるミュージアム」をテーマとするシンボルマークと、館名のロゴタイプを作成し、「いわての漆」展の印刷物や、広報から使用しています。

また、今年度の後半には、開館以来30年が経過し、褪せや老朽化などが進んだ、館内の案内表示、展示パネル、映像表示システムなどの大掛かりな修繕、更新等を実施しました。装いを新たにした当館に是非足をお運びください。

最後となりましたが、当館の活動を様々な形で支えていただいている「岩手県立博物館友の会」(赤澤義昭会長、平成2年設立)も、今年度、創立20周年の節目を迎えています。

当館は、県民の皆様とともに、「岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全体的な機関として」(当館の使命書より)、これからも歩み続けます。

今後ともよろしくお願いたします。

■解説員室より

# けんぱくものしりシート

解説員 三河綾乃

博物館には、恐竜の化石や仏像、民具、イヌワシのはく製等、様々なものが展示されています。珍しいものが沢山あり見ただけでも楽しいですが、「この展示物についてちょっと知りたいな」と思った時、『けんぱくものしりシート』を利用してみたいかがでしょうか。

「けんぱくものしりシート」は、平成22年7月から新たに発行されている展示資料解説シートです。博物館に展示している資料の中から1つの資料あるいはテーマを取り上げ、展示資料に関する様々な情報を提供し、利用者の興味や関心を引き起こすことを目的として発行されています。

今までも同じような目的で資料解説カード「これなあに？」(平成3～22年)が発行されていました。「けんぱくものしりシート」は「これなあに？」を一新

したものであり、用紙サイズの拡大変更(B5→A4版)、古くなった展示資料情報の更新、小学生でもわかりやすいやさしい言葉での説明、ご年配の方でも読みやすい文字の大きさ等の工夫がされています。



また、絵や写真を効果的に用いて説明しているため、親しみやすく「けんぱくものしりシート」を片手に本物の展示物と解説付きの写真等を照らし合わせながら展示物について知ることもできます。発行日は毎月第1土曜日であり、地質、



考古、歴史、民俗、現勢・生物、体験学習室の資料を順に紹介しています。博物館展示室にて配布しているほか、当館HP上でも公開しています。

学校の自由研究・レポートの調べ物に、気になる資料について知るために、また「博物館の図鑑」を作る気持ちで一枚いちまい集めていくのも楽しいかもしれません。読むたびに博物館を知り身近に感じられる「けんぱくものしりシート」をお届けしています。ぜひご利用ください。

■事業報告

## 県立博物館写生会

写生 平成22年12月18日(土)～平成23年1月16日(日)  
作品展示 平成23年1月29日(土)～平成23年2月20日(日)

岩手県立博物館では、12月18日から1月16日の期間に、冬休み期間中の写生会を開催しました。

松園地区周辺の小学生、幼稚園児、保育園児に県立博物館から見える景色や展示資料の素晴らしさを紹介することで、博物館に更に親しんでもらおうという目的で始まった県立博物館写生会ですが、今年で5年目となります。



絵を描く子どもたち

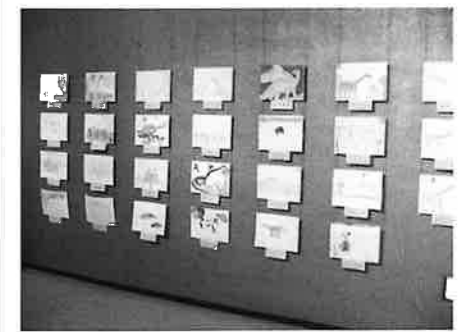


たくさん子ども達がグランドホールから見える岩手山やマメンキサウルス、兜蹴毘沙門天立像をテーマにお絵かきを楽しみました。

完成した作品について、1月29日から2月20日の期間にグランドホールにて展示会を開催しました。どの絵も力作揃いで博物館の展示に一層の賑やかさを加えてくれたのではないのでしょうか。

参加していただいた小学生、幼稚園児、保育園児には、記念品として当館オリジナルカレンダーをプレゼントいたしました。県立博物館に親しんでもらうためにも、来年以降も写生会を継続していきたいと考えております。次回も多くの参加をお待ちしています。

(総務課 松尾 健生)



作品展示の様子